

E

## カラフルな魔女の物語

～角野栄子 85歳の鎌倉暮らし～

第1話「ワンピース」 11月22日(日) 午後6:30～6:55

第2話「いたずら描きとさんぽ」 11月29日(日) 午後6:30～6:55

「魔女の宅急便」で知られる児童文学者の角野栄子さん。白髪のおかっぱ頭にカラフルなメガネとファッションがトレードマーク。2018年には“児童文学のノーベル賞”といわれる国際アンデルセン賞作家賞を受賞、85歳の現在、「大好きないちご色」の壁の、鎌倉の一軒家で1人暮らしをしている。

20代で自費移民としてブラジルに渡り2年暮らしたり、4歳の娘を連れて2か月海外旅行をしたりと、破格の行動力の持ち主。コロナ禍で外出すらままならない中でも、リモート会議のやり方を覚え、「ベランダからアリの眺めているだけでも新たな発見があって、心が動く瞬間がある」と、旺盛に創作を続けている。

“85歳のひとり暮らし”をテーマに書き下ろしていただいたエッセーをもとに、老いや衰えも逆手にとって楽しみに変える軽やかな発想と、日々の暮らしの中から物語が生み出されるさまを描く。

◆第1話「ワンピース」・・・いつもおしゃれな角野さんの着こなしのベースは、実はすべて同じ形のワンピース。国際アンデルセン賞の授賞式で着ていた白いワンピースも、実は1万円以下だった!? 戦争で着るものにも不自由した少女時代から、老年期に入り「歳をとっても着心地がいい服」にたどり着くまでの洋服遍歴を語る。角野さん流「気持ちいい生活」の作り方とは。



◆第2話「いたずら描きとさんぽ」・・・夕方まで執筆すると散歩に出るのが角野さんの日課。ルートを決めず気ままに歩き、迷うことすら楽しんでしまう。池の鯉を眺めて彼らの会話を想像したり、浜辺で陶器のカケラを拾って海の彼方に思いをはせたり。必ず持ち歩く「黒革の手帳」には、落書きや思いつきのメモがいっぱい。そんな中から新たな物語がどんどん動き出して・・・。

語り：伊藤沙莉      テーマ音楽：藤倉大